

## 水銀から電子へ 体温計が替わります

Abe

現在、水銀体温計の危険性について以下のように認識されているようです：

(ウィキペディア) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%93%E6%B8%A9%E8%A8%88>

体温計に使用される水銀は、液体のまま経口摂取してもほとんど消化されずに便として排出されるため無害であるが、気化した蒸気を吸い込むと身体に悪影響を及ぼすため取り扱いには注意が必要である。たとえば破損した水銀体温計やこぼれ出た水銀をそのまま放置しておくで徐々に水銀が気化し、肺を通じて人体に取り込まれ、主に腎臓や神経に悪影響を及ぼす(水銀中毒)。乳幼児の体温を測定する場合などは破損事故が発生することが多いため、特に注意が必要となる。

以上のように、「環境問題」として危険視されており、もはや世界中のメーカーは、のきなみ製造中止したのです。

### 世間を驚かせた、水銀体温計の製造打ち切り (テルモ HP から)

1985年、60年以上も続いたテルモの水銀体温計づくりは、突然、終わりを告げました。国内一位の生産量だったのに、です。その理由は、「水銀」。当時、体温計の「無機」水銀が原因となった、環境汚染や健康被害の報告は見られなかったのですが、やはり公衆衛生上、望ましいことではありません。企業も、市民としての感覚を大事にすべきだと考え、テルモは、思い切った決断をしたのです。

結果として、当方でも水銀式体温計の在庫が少なくなっております。

一方で、電子体温計は、すでに人用としては一般的ですが、牛用に応用できる物がなくて、我々も模索しておりました。

右の写真の物は、私が昨年から使っているものです。

過去には品質にバラツキがありましたが現在は改良済みです。

さて、本器の欠点は：

- ★ 本体が防水ではない。
- ★ 衝撃に弱い(1回落としたらオフ)。

一方で、利点としては：

◎8秒で出る。

ですので、幾つかの注意点を気を付ければ十分応用可能です。

で、その注意点とは、

- ①きれいな手で体温計を握るよう習慣付けましょう。
- ②8秒で出てしまうので、しっかりと身体に密着させる必要があります。そこで私は、手首のスナップを使って、脛壁の上側に圧着させます。
- ③念のために2度、3度測ってみると、より確かになるでしょう。特に、予測と異なる場合は複数回測ることをお勧めします。
- ④先のセンサーを傷つけないように、アルコール綿花で、優しく清拭します。

本器のお値段は5,500円程度となっております。

《ワンポイントアドバイス》 検温の際に、尻尾を持つ左手で、尻尾の表面温度も感知してみてください。低カルシウム血症などでは、異常に冷たいことがあります。

